

ウ 移動図書館業務の在り方の進捗状況【資料】

4-(1) ウ 移動図書館業務の在り方の進捗状況

No.	検討項目	検討内容	現在の検討状況
1	ステーション	平成28～30年度の巡回数や貸出点数から各ステーションのコストを算出し、費用対効果を考慮したうえでステーションについて廃止を含めて見直す。 なお、見直しに当たっては、各ステーションのサービス対象地域や閲覧などの利用についても考慮する。	<ul style="list-style-type: none"> ステーションによるコストの差が大きい。 ※資料1点の貸出にかかるコスト（平成30年度） 最小：約200円 最大：約4,400円 平均：約1,670円 サービス対象地域が重なっているステーションがある。 以上の点を踏まえ、ステーションの統廃合を検討中。
2	車両	現在の車両の問題（車体の大きさ等）を解決でき、かつ来館出来ない人への図書館サービスを充実できるような車両について検討する。	1.45t外架式及び2.0tセミバスタイプを検討中。 2.0tセミバスタイプは車体が安定し、収容冊数も多いため好ましいが、平成29年3月以降取得の普通免許では運転できない（1.45tは運転可能）。 5年・10年先の運営を見据え、移動図書館車以外の選択も検討する。
3	資料提供方法	保育施設及び介護保険施設へのアンケート調査を基に、乳幼児や施設に入所している高齢者といった図書館への来館が難しい方への資料提供方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 民間保育施設及び公立保育園にアンケートを実施（回収率58%）。資料提供サービスを利用したいという声は多く、出前図書館や団体貸出、資料の寄贈への要望が多い。また、おはなし会や映画会の出前サービスの要望も多い。 介護保険施設に対しアンケートを実施中（回答締切：10/25）。現時点での回答からは、資料の管理や保管場所といった課題から資料の提供サービスに対しては消極的であるが、おはなし会や映画会の出前サービスの要望は大きい。

4	他課との連携	<ul style="list-style-type: none"> 市内に25ある地区公民館や公民館区に順次設置予定の町内福祉村と連携した資料提供サービスを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 土屋公民館の図書コーナーへの支援や団体貸出の実証実験を実施中(7/18～)。大人の利用が多いが、児童の閲覧利用もあるとのこと。 ※貸出点数 令和元年 7月：28点 8月：43点 9月：55点 平成30年 7月：10点 8月：12点 9月：4点 平成29年 7月：2点 8月：13点 9月：4点 町内福祉村は、施設によって規模等に違いがあるため、個別での検討が必要になる。 予約資料の受取サービスの窓口設置について検討する。
5	郵送サービス	県内公共図書館の実施状況を調査し、実施について検討する。	障がい者サービスとして宅配を実施している図書館11館及び一般向け有料サービスとして宅配を実施している2館の実施内容を確認中。県内公共図書館の調査結果も踏まえて、検討する。
6	電子図書館	県内公共図書館の実施状況を調査し、実施について検討する。	電子図書館を導入している2館の実施内容を確認中。県内公共図書館の調査結果も踏まえて、検討する。
7	県内公共図書館の調査	県内公共図書館の市町村域への資料提供方法の調査を行い、来館出来ない人への図書館サービスの在り方について検討する。	図書館サービスの空白地帯をつくらないために提供しているサービスについて、県内公共図書館を対象に調査中(回答締切：10/25)。